

慶應×オリンピック

英国オリンピック代表チームが、慶應にやってくる。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに際し、約1ヶ月、日吉キャンパスのスポーツ施設を利用することになったのだ。計13種目の選手たちが、日吉記念館や陸上競技場、蝮谷体育館といった施設でトレーニングをする予定となっている。そこで今回、オリンピック選手受け入れに携わっている、「KEIO 2020 project」の関係者に話を聞いた。

「BOA(英国オリンピック委員会)としては、大学と一緒にやりたいという思いがあったみたいです」。慶應義塾大学体育研究所助教でKEIO 2020 project コーディネーターの稲見崇孝氏は、慶應がキャンプ地として選ばれた決め手についてこう語る。BOAは、なぜ慶應をキャンプ地に選んだのか。その背景には、2012年のロンドンオリンピック後に、ウサイン・ボルトが残したこのようなコメントがあった。「バーミンガム大学に心からお礼を言いたい。ジャマイカ代表チームをサポートしてくれた。そのすべてに感謝している」。人類最速の男が、金メダル獲得後にわざわざ大学まで出向いて感謝の言葉を述べたのだ。バーミンガム大学のサポートは、よほど素晴らしいものだったのだろう。彼の発言はオリンピック関係者の間で大きな話題となっている。

慶應をキャンプ地に選んだイギリスチームに最高のおもてなしをするために、KEIO2020projectは既に動き始めている。月に2-3度の定例会議に加え、マナー講座、オリンピックの歴史やムーブメント、スポーツボランティアについて理解を深める勉強会なども実施している。公的なやりとりに関して、現在は主に教員が担当しているが、組織化された後は学生主体で活動する。稲見氏は、学生の側から様々な提案をしてくれることを望んでいるという。これは、文武両道の精神を大事にしている慶應だからこそできることだ、とも付け加えた。

KEIO2020projectに携われるのは、在学中の生徒だけではない。卒業生にも関わりを求めている。「先生からは、社会人の視点からプロジェクトをサポートしてほしいって言われています」。活動初期から運営に携わる河野友成さんは語る。河野さんは現在、商学部3年で、2020年には既に社会人だ。しかし、学生ではなく社会人だからこそできるサポートがある。大学卒業後もなんらかの形で学生たちを陰から支える存在でありたいと考えているそうだ。

イギリスチームが慶應でトレーニングをすれば、当然、多くの人が日吉に集まってくるだろう。日吉という地区全体の活性化や、地域交流にも期待が高まる。「イギリスチームの受け入れを通じて、関係するすべての人がハッピーになってくれればいいですね」。稲見氏はこう語った。その目には、3年後の明るい未来が映し出されていた。